

みつけた!

福岡県保育協会通信



Discovery.

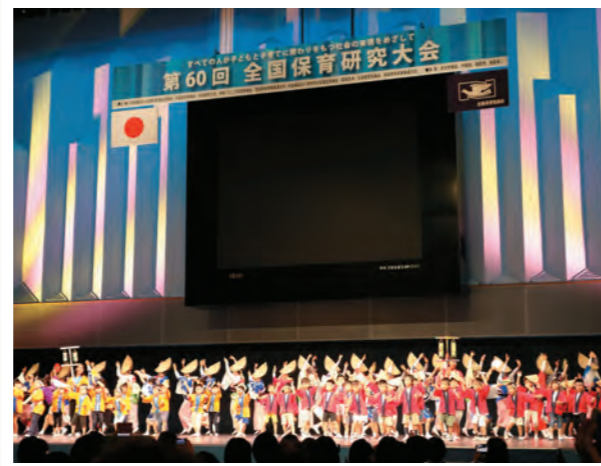
By mutual confidence and mutual aid,
 Great deeds are done, and great **discoveries** made;
 相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなされる。
 —ギリシアの詩人 ホメロス

第60回全国保育研究大会	2
第64回福岡地方保育事業研修大会	3
第65回筑後地方保育事業研究大会	4-5
公立発信	6
青年部活動報告	7
保育士会活動報告	8
新園紹介	9
熊本地震被災地支援募金報告	10
コラム・編集後記	11

公益社団法人

福岡県
保育協会

第60回全国保育研究大会

「すべての人が
子どもと子育てに
関わりをもつ社会の
実現をめざして」

若竹保育園 園長 椎葉 聖

平成28年10月12日(水)～10月14日(金)に徳島県徳島市において第60回全国保育研究大会が開催されました。

初日は、オープニングアトラクションの保育士と子どもたちによる見事な阿波踊りに始まり、式典が行われ、特別感謝表彰3名・会長表彰1名及び保育活動専門員認定証授与が行われました。その後、開会式で万田康会長が主催者挨拶並びに保育制度の現状説明や提言をされ、その後、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課の方より「保育分野の現状と取組について」の講演をいただきました。

講演終了後、参加者の交流会が行われ、各テーブルでは初めて顔を合わせる保育士たちといろんな話をする機会となり楽しい交流会となりました。

2日目は、各分科会に分かれ各研究発表や事例発表を中心に意見交換や助言者による講義が行われました。

私が参加した第一分科会では「新たな時代の保育実践～すべての子どもに向けて～」と題し、3園の事例発表とそれに関するグループ討議が行われ、それをベースに助言者の西南学院大学の門田理世教授から考察と助言並びに講義がありました。

事例発表では子どもが主体となる活動を運動からの観点や子どもの行動観察記録からの取り組み、また園の活動を園内研修で振り返りながら生かし、小学校へどうつないでいくかなど興味深い内容の発表が行われました。グループ討議では事例発表をもとに、様々な県の保育士や園長と話ことができ、共通する課題や問題点また、それぞれの地域ならではの取り組みについて色んな角度からの話や情報の交換

を行い、大変有意義な討議となりました。

また、それぞれの保育所で日々行われている保育自体については質を高めるという課題は常にあるが、やっている内容については各々のやり方の違いはあるものの子ども主体の保育を工夫しながら実践していることを確認でき、今後の保育に対するの自信を持って取り組めるいい機会になりました。

そして質疑応答の後、門田教授の助言により、実践発表がより深く考察され理解が深まりました。

ほかの各分科会においても実りある学習の機会になったようです。

最終日には元保育所職員でもあった写真家兼森の案内人の小西貴士氏によるスライドショーと並行した講演がありました。

四季折々の保育から垣間見える子どもたちの表情やストーリーは保育所職員であった小西氏ならではの視点から切り取られ、本当に臨場感のある写真で、見るものを飽きさせない楽しいものでした。

講演終了後、講演で使われた写真の入った小西氏のエッセイ集に長蛇の列ができ、帰りの時間が迫った私は後日取り寄せて購入いたしました。

個人的に四国に行ったのも初めてで、福岡からは少し行きにくい徳島の地が身近に感じられるようになり、機会があればまた訪れたいと感じるいい研修となりました。

第64回福岡地方保育事業研修大会

「子どもの笑顔を
未来へ繋ぐ」

実行委員長 井上 孫紹

～想像力が心を育てる～

平成28年8月21日(日)福岡県保育協会役員、地元市長をはじめとする関係の方々を迎えて会員832名の参加で「第64回福岡地方保育事業研修大会」が那珂川町ミリカロード大ホールにて盛大に開催されました。

オープニングには筑紫地区43ヶ園の代表者による手遊びを交えた「43人のあそびうた」の披露がありました。今回のオープニングは各園から保育士のみならず給食、事務職員と様々な職員が集まり、ひじり保育園鈴木園長、こすもすナーサリースクール梅木園長の指導の下、計5回の練習を行いました。子どもの笑顔を未来へ繋ぐために、子どもに関わる職員全員が一丸となって1つの事に取り組むことが大切ではないか、と考え今回の遊び歌の披露となりました。1回1時間という短い練習ではありましたが、平日の忙しい時間帯に各園が練習参加に協力をしていただいたことは、非常に意味あることだったと思います。

筑紫地区は春日市、筑紫野市、大野城市、太宰府市、那珂川町の4市1町で構成されています。筑紫耶馬溪に代表される豊かな自然と太宰府天満宮、日本の古代山城大野城を代表とする史跡が多数あり、そこに43万人を越す人々が生活をしており、福岡地区のベッドタウンとして昭和50年代から宅地開発が進み、平成28年度は43ヶ園の認可保育所が子ども達の笑顔を未来へ繋ぐために、地元行政と協力しながら、各園の特色を活かしながら日々努力をしています。

大会は筑紫野市保育所慈生園保育士原口ルミ先生による実践発表「セカンドステップに取り組んで」があり、園での取り組みの内容を画像と映像を加え

て紹介がありました。実践発表終了後、引き続き大会式典が行われました。開会のことば、大会会長であります福岡地方保育協会椎葉聖会長の挨拶、福岡県保育協会万田会長による表彰(一般表彰)47名の方々が長年の功績を讃えられ表彰を受けられました。受賞者を代表して岡本保育所藤尾美穂主任保育士が感謝のことばと今後の保育への精進の決意を述べました。その後、筑紫地区市町長会会長の藤田陽三筑紫野市長にご祝辞をいただき、会場全員で花のおさなごを斉唱し、最後に次回開催地糸島地区古家嘉康会長のご挨拶で終了しました。

記念講演は児童文学作家の斎藤惇夫氏の「子どもの成長と絵本」という講演があり、乳幼児期はもちろん、お母さんのお腹にいる胎児にとっても絵本の読みかきかせが大事であるというお話がありました。心をこめて絵本を読むと、子どもは物語の主人公になりきる、よい絵本は世代を超えて引き継がれていく、毎日15分の読みかきかせの大切さなど、日々の保育に当たり前のようになっている絵本について、再認識をすることが出来ました。講演終了後、会場からは斎藤先生に感謝の拍手が送られ、本大会の閉会となりました。

終わりに、本大会を開催にするにあたり、福岡県保育協会役員、各地区会長の皆様をはじめ関係各位のご理解とご協力に心より感謝いたします。



第65回筑後地方保育事業研究大会

「すべての人が子どもと 子育てに関わりをもつ 社会の実現をめざして」

実行委員長 甲斐田 和子

～新たな時代の保育実践—すべての子どもにむけて～

2016年10月30日(日)、第65回筑後地方保育事業研究大会を、筑後北部地区の小郡市保育協会が担当させて頂きました。今回の大会では、「研究大会」に重きを置き、主題を「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」とし、子どもの育ちを保障するという立場から、「新たな時代の保育実践」をサブテーマとしました。小郡市保育協会が「保育の質の向上」を目標にして、市内全保育所(園)が12年間にわたり取り組んできました「公開保育」を見ていただく事と致しました。大会当日には、貴重なお休みの日にも関わらず、1,200名以上の先生方にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

10月25日(火)から28日(金)の4日間、13園が各々1日2コマずつ(計100コマ)日常の保育を公開いたしましたところ、筑後地方全域から延べ295名の先生方が見学に来て下さいました。公開保育に臨んだ保育士にとっては、平常心でと自分に言い聞かせてはいても、やはり緊張のあまり日常の言葉掛けができなかったり、表情が強張って笑顔が出ていなかった等の反省もたくさん出ておりましたが、見に来て下さった先生方のご意見や感想が励みになり、新しい課題を探る機会になりました。平日でご多忙の中に足を運んで下さった先生方に心より感謝申し上げます。12年間取り組んできました「公開保育」につきましては、市内13園から1名ずつで組織された研修委員が「公開保育を通しての気づき・学び・成長」と題して12年間を振り返りながら、「公開保育を始めるきっかけ」「始まった当初の思い」「学習会を通しての気づきと学び」「この12年間での変化」「今後の

課題と思い」について映像を交えての発表をいたしました。

また、記念講演では、公開保育について10年近くご指導頂きました幼児教育専門家の熊丸みつ子先生から、「今を生きる子どもたちへ伝えたい」～大人として保育士として～という演題でご講演頂きました。

“10手のかかる子は、10生きる力を持っていて、10幸せになる。”

“周りの子と比べず、わが子の1年前の姿と比べて成長してれば順調!”

“子どもは抱っここのタンクを持っている。タンクがいっぱいになれば自ら離れていく。抱き癖なんてない。たくさん抱っこしてあげて。”

“みんな奇跡の命。みんな命をかけて産んでもらった。幸せになるために産まれてきた。”

と、保護者そして保育者が日々抱えている悩みを救い上げて下さり、心と体が元気になり、明日からの活力になるお話しをして頂きました。

このように小郡市保育協会が研鑽を積んで参りました「公開保育」が今大会をきっかけに問題提起となり、小郡市に止まらず多くの地域に広まり、保育に携わる人たち皆で、より良い保育の質の向上を目指して共に学び合いができます事を願っております。

式典では、「花のおさなご斉唱」を、ピアノと石垣征山さんの尺八のコラボレーションで今までにない伴奏を試みました。また、研究大会のオープニングでは、石垣征山さんの尺八と市川慎さんの箏で、和楽器本来の古典曲に加えて、「となりのトトロ」「さくら(森山直太朗)」「糸(中島みゆき)」を演奏して頂き



ました。皆様方から、従来の尺八・箏のイメージが変わり、和楽器の音色の素晴らしさがひしひしと心に響き、癒しのひとときになったとのご感想を頂戴致しました。

尺八奏者の石垣征山さん・箏奏者の市川慎さんは、和楽器の素晴らしさを幼い子どもたちにも是非知って欲しいとの強い思いでこれからも活動の場を広げていきたいと語っていらっしゃいました。素敵な演奏を届けて下さりありがとうございました。

表彰を受けられた81名の先生方におかれましては、心よりお祝い申し上げます。今大会では、表彰を受けられる先生方のお姿を参加者の皆様に見て頂きたく、全員登壇してもらい、表彰式を行いました。福岡県保育協会会長の万田康先生より表彰状を授与して頂き、「ソーラン節」の尺八演奏をBGMに、皆様からの盛大な拍手の中、降壇となりました。表彰を受けられた先生方には早朝からお見えいただきリハーサルにご協力して下さいました事に重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。これからも、先輩保育士の皆様方を支えて、後輩保育士の皆様方の良きアドバイザーとしてご尽力下さりながら、20年後30年後もご活躍下さることを願っております。

最後に、大会当日、ご多忙の中ご臨席賜りましたご来賓の皆様方、また、大会開催にあたりご協力ご尽力いただきました筑後地方保育協会の各地区会長の皆様方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



子どもの育ちを支え、 地域とのつながりを 大切にした保育を!

桂川町立吉隈保育所 園長 川角喜代美

はじめに

桂川町は、自然豊かな人口1万4千人の小さな町です。平成の大合併の時に、合併しないことを選んだ町で、嘉穂郡を1町で担っています。

桂川町には、県立高校1校、中学校1校、小学校2校、そして、公立保育園2園と私立保育園1園、公立幼稚園1園の計4園があり、私たちの保育所はその中の1園(公立)です。

園目標

- 安心して園生活を楽しむ。
- しなやかな身体と豊かな感性をもった子どもに育てる。
- 仲間を大切に、仲間と共に生きていく子どもに育てる。
- ※生活リズムを整え、基本的な生活習慣を身につける。
- ※よく考えて自分の意見を伝え、友達の考えも聴ける。

園の特徴として

・保・幼・小・中との連携

桂川町には、「桂川町人権・同和教育推進委員会」(小中学校の教員・保育園幼稚園職員で構成しています)があり、その中の組織として、35年前から「桂川町就学前人権・同和教育推進委員会」(公立私立保育所3園と公立幼稚園1園の4園で構成)“就学前部会”として活動し、小学校・中学校との会議を月1回もち、連携をとっています。

- | | |
|-----------|---|
| ・地域との関わり | <ul style="list-style-type: none"> ・散歩 ・園庭開放(年間5回) ・社会福祉施設との交流 ・ひとり暮らし高齢者会飲食交流会 ・地元、総合高校との交流、見学 ・筑豊地区幼年消防まつり ・5歳児音楽交流会 |
| ・園外での体験交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館訪問 ・体験乗車 ・スイミングスクール(以上児 年2回) |



5歳児音楽交流会

公立 発信

園内での行事・体験(上記のほか)

- 春… バス遠足、保育参観、交通安全教室
(パトカー来園)、消防訓練教室(消防車来園)
夏…七夕会、夏祭り、平和の集い、ゼリーづくり、野菜づくり
秋…運動会、いもほり、焼いも焼きそばパーティー
冬…生活発表会、観劇、フラワーアレンジメント教室、
ケーキづくり、もちつき

おわりに

合併が進む中、嘉穂郡の中でも1町残り、小さいからこそ細かいところに手が届く保育を努力していきたいと思っています。これからも、町立2園、私立1園で子どもたちの最善の利益を保障できるよう、地域とともに一生懸命保育に取り組み、安心して預けられる保育を目指してがんばっていきます。



地元、総合高校との交流、見学



図書館訪問



社会福祉施設との交流(七夕まつり)

福岡県保育協会青年部活動報告

全国私立保育園連盟 青年会議 おきなわ大会 ～黄金の子(くがにんぐわ)～



福岡県保育協会青年部 部長 菊池 圭
(宮ノ陣保育園)

去る平成28年6月21日に西鉄グランドホテルにて行われた平成28年度青年部総会において青年部役員も下記の通り新体制となりました。

- 部長 菊池 圭 (宮ノ陣保育園・久留米市)
副部長 岩淵 善道 (水城保育園・太宰府市)
副部長 森口 賢了 (みのり保育園・豊前市)
副部長 白山 雄一 (ひかる保育園・飯塚市)
副部長 星岡 剛 (おんがの保育園・直方市)
会計 森山 裕喜 (小森野保育園・久留米市)
事務局 松永 和也 (みすず保育園・小郡市)

このメンバーでますます青年部の活動が活発になるよう努めていきたいと思えます。

毎年、青年部では独自の研修会以外にも県外で開催される研修大会へ積極的に参加しています。今年は10月27日～28日に沖縄県那覇市ロワジールホテル那覇で開催された『第36回全国私立保育園連盟青年会議おきなわ大会』に12名の部員が参加しました。大会は沖縄らしい琉球舞踊で幕を開け、大会初日の行政説明では平成30年度より施行予定の保育所保育指針について、厚生労働省から保育指導専門官の馬場耕一郎先生を迎え、詳しく説明していただきました。改定の方向性として(1)乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載の充実、(2)保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけ、(3)子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえた健康及び安全の記載の見直し、(4)保護者・家庭及び地域と連携した子育て支援の必要性、(5)職員の資質・専門性の向上と5つのポイントが挙げられています。今後、さらに内容の検討を重ね、平成28年度末に最終的な報告を取りまとめる予定となっているとのことでした。また、同日に行われた分科会では、6つの分科会に分かれて研修がすすめられました。私の参加した分科会では、「笑顔あふれる保育園づくり～明日を楽しみにする環境づくり～」と題して、8名ほどのグループに分かれて理想の保育園を設立するというものでした。各グループで園の立地条件や理念があらかじめ設定されており、その

条件の中で理想の保育園をどう作り上げていくか議論を進めていきました。グループ内ではそれぞれに役職(園長・副園長・主任・ベテラン保育士・中堅保育士・新人保育士・調理員・事務員など)が決められていて、その与えられた役になりきり発言をしなければなりません。初めてお会いする全国から集まった若手の園長先生や保育士の方々と、はじめはなかなか意見が出ませんでした。架空の園の設立という作業を通して理想の保育論を語り合ううちに打ち解け合い、真剣に議論を交わすことができました。分科会が終わるころには自分たちで作上げた架空の保育園を誇らしく思うことができ、また新たな仲間と出会うことができた喜びから、何とも言えない達成感を得ることができました。大会2日目には沖縄民謡歌手の古謝美佐子氏を迎えて記念講演が行われました。古謝氏自身の子育ての話や、沖縄の子育ての文化などを歌を織り交ぜながら話され、NHKドラマ『ちゅらさん』の挿入歌で有名な「童子(わらびがみ)」や、今大会のテーマである「黄金の子(くがにんぐわ)」を歌われました。この歌は、古謝氏の孫が誕生する際に作られた子守歌で、琉球音楽の独特なメロディーに合わせて、子どもに対する母親の深い愛情が沖縄の言葉で表現されていて、聞いているとなぜか懐かしく心が穏やかになるようでした。10月の沖縄はまだ暑く、大会中は気温30度という日もありましたが、全国から集まった青年保育者と交流し情報を分かち合いとても爽りのある研修大会となりました。今後もこのような大会に参加し全国に青年保育者同士のつながりを作っていきたいと思えます。

最後に、青年部は将来の保育園を担う50歳以下の園長または園長候補者、それに準ずる者の集まりです。私たちと共に学び、友情を深め、青年保育者として共に語り合ひましょう!

青年部ではあなたのご入会を心よりお待ちしております。

【青年部に関するお問い合わせ】

青年部事務局
(みすず保育園 松永和也 TEL:0942-23-0876)

保育士会活動報告



福岡県保育協会保育士会常任委員 朝倉市立三奈木保育所 桑野里美



福岡県保育協会保育士会では、「保育者の自己改革と資質の向上(研究・研修の充実)」「子どもが豊かに育つ新たな環境を構築する取り組み」「組織運営の充実」「保護者・地域社会の保育に対する理解促進のための発信強化」の4本の柱を掲げ、活動しています。特に乳児保育においては力を注ぎ、平成27年度から2年をかけて年間に3本のプログラムを立て乳児保育のスペシャリストとしての力量を高めることを目指して、東京家政大学ナースリールーム主任の井桁容子先生を講師にお迎えし、乳児研修会を開催し学びを深めています。

子どもたちが感情豊かに思うがままに自分を表現し、自己肯定感を持ち、主体的に活動できるようになるには、私たち保育士はどうあるべきなのか。保育士の温かいまなざしや視点の重要性、食と睡眠などの生活習慣の観点から、また解明されてきた科学的根拠も含め、様々な角度から乳児保育の基本を学び実践しているところです。

この乳児研修会を2年間で3回受講された方には受講修了証が発行され、キャリアアップのうえでも励みとなり意識の向上にもつながっています。

第50回全国保育士会研究大会第2分科会「子どもの発達と環境(3歳以上児)」において「身体を動かして遊ぶ楽しさを子どもたちに〜心と身体の発達を促す保育士のかかわりに向けて〜」というテーマで発表するにあたり、保育士会調査研究部会が中心となり研究をすすめてきました。

この研究は、一人ひとりの子どもが健やかに育っていくための子どもたちが抱えている問題について平成26年度に実施したアンケート結果をもとに、身体を動かす遊びに焦点をあて、広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授の田中沙織先生にご指導いただきながら、子どもの心と身体の発達を促す保育士のかかわりについて取り組んできたものです。これらの研究を保育士会全体で共有するべくその実情と今後の展開について「乳幼児期にとって運動がなぜ大切なのか」等、研修会で学びの機会を持ち保育の発信も行っています。

今後も研修、研究を充実させ、「子どもの最善の利益」を目指し、保育の専門職としての資質の向上にむけ、取り組んでいきたいと考えています。

新園紹介 ぴかぴかの新園を宜しく願います!

あおぞら保育園は、平成28年4月1日に、定員90名の保育園として二日市南地区に開園いたしました。当園のそばには電車が通っており、子どもたちは電車が通るたびに目を輝かせながら、手を振っています。また、当園の真ん中には、太陽の光がたくさん入ってくる大きな吹き抜けの中庭があり、日向ぼっこをしたり、水遊びをしたりと、楽しめるようになっています。

目指す子ども像(保育方針)として、「感謝する思いやりのある子」「健康で明るい子」「最後まで根気よくやりとげる子」「人に迷惑をかけない子」の4つを掲げ、よりよい環境の中で健やかに過ごすことのできるよう、保育を行っています。また、子どもたちが季節感を感じられるように戸外遊びを活発に行い、沢山の行事を体験できる機会を設けています。食育にも力を入れており、栄養士が栄養のバランスを考えて献立を作り、毎日手作りのおやつを提供しています。給食室の前には、作っている様子が子どもたちにも見えるよう大きな窓も設置しています。お迎えの際には、展示してある給食を保護者の方と見ながら、楽しそうにお話している姿が見られますよ。

当園では、健康な体作りのために裸足保育を行い、ウォーキングに行ったり、月に2回運動遊びの日を取り入れて、鉄棒やうんてい、マット運動など体をいっぱい動かして体を鍛えています。最後になりますが、日々子どもたちの成長していく喜びを保護者の方と共有していきながら、子どもたちが安心して楽しく過ごせるよう見守っていききたいと思います。

あおぞら保育園
園長 山下 敏明



宇美タンポポ保育園
園長 吉村 幸也

宇美タンポポ保育園は、糟屋郡の宇美町に平成28年4月1日より開園いたしました。社会福祉法人希翔会が運営する2つ目の保育園です。

保育園がある宇美町は、自然豊かな環境にありながら、福岡市内への通勤・通学の利便性から住宅地として発展しています。また、安産の神様として有名な宇美八幡宮があり、初参り、七五三など多くの参拝客でいつもにぎわっています。

当園は、創立からの「ホッと笑顔の花開くみんなの居場所」という理念を大切にしながら、子ども自身がそれぞれの成長過程の中で、充実した生き方を実現していくとともに、大人になった時、豊かな人格を形成し、自立して社会に適応していく立派な人となってほしいと願いながら保育しています。そのために、タンポポ保育園では、その子の今を大切にしています。子どもたちが安心できる家庭的な雰囲気の中で「遊び=生活活動」と捉え、子どもの健やかな成長と情操の芽生えと知能の発達を育てます。

宇美タンポポ保育園が保護者、子どもたちがホッとできる心やすまる保育園となるように職員一丸となって創意工夫を行い、保育園、子ども、保護者の皆様が一つとなり共に歩み、共に育ち、笑いあい、感動しあう保育を目指して保育しています。



熊本地震被災地支援募金報告

福岡県保育協会 事務局長 中村 治幸



平成28年4月14日21時26分に発生いたしました、熊本地方を震央とする「平成28年熊本地震」は今もなお地震が発生しているのが現状であります。

皆様ご承知のとおり、支援募金は、4月22日、保育三団体被災地支援募金、5月2日、九州保育三団体協議会熊本地震支援募金の受入れ口座が相次いで開設されました。

当協会では、5月10日開催の常務理事会において「熊本地震支援募金について、今後、当協会として取りまとめ、九州保育三団体協議会の指定する口座へ振り込む」ことが決定されました。

これまで、各地方、各地区等を中心に多くの会員の皆様の取組みにより、7,776,358円という多額の心温まる支援募金が寄せられました。会員の皆様のご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

また、九州各県(市)より寄せられました募金額につきまして、9月7日、熊本市において開催の九州保育三団体協議会理事会において、配分方法について協議されました。

同協議会の会長で、九社連保育協議会会長、大分県保育連合会会長の佐藤会長より、災害救助法の適用地域に入っておられる熊本県保育協議会沖田会長、熊本県保育協会塚本理事長、熊本市保育園連盟江藤理事長に対し、配分方法について意見を求められました。

保育三団体が採用している配分(送金額)は、管内所在の保育所数に応じた比例按分ですが、沖田会長、江藤理事長から関係三者で協議の結果、今回の配分に当たり、『被災園の数をベースに算出する方法を採用していただませんか』という提案がありました。この方法によると、数多く被災された熊本市内の保育所(園)の支援に繋がるといふものであります。佐藤会長より、「配分については被災県に任せる」という提案があり、全会一致で了承されました。



なお、大分県は災害救助法の適用地域がないことから保育三団体の手法に準じ保育所数に一定の乗率をかけて按分する方法が採用されております。この結果、今回の各県(市)に配分された支援募金の額は次のとおりであります。

熊本県(熊本県保育協議会、熊本県保育協会)	20,353,284円
熊本市(熊本市保育園連盟)	12,799,488円
大分県(大分県保育連合会)	4,223,520円
(合計)	37,376,292円
	※平成28年10月31日現在

また、熊本県塚本理事長より、「去る7月29日、九州各県私保連役員による各県選出国会議員へ要望いただいたことにより、『当初認められていなかった、地割れ対策、外溝補修、施設内道路補修について認められることとなった』とお礼が述べられました。

会議終了後、佐藤会長より、被災された各県(市)の代表者の方へ目録が手渡され、各代表者より九州各県(市)の皆様に対し、感謝の気持ちが述べられたところでもあります。

私も、9月7日、熊本市での会議に出席いたしましたが、JRの車窓から特に市街地の周辺部に点在するブルーシートが目に入り、地震被害からの復旧が長引いている現状に胸を痛めました。

気象庁は、通常、大規模地震の後には余震の発生確率を発表していますが、熊本地震では「過去の経験則があてはまらない」と発表を取りやめるなど観測史上前例のない事態であります。

今回の地震に見舞われました地域、そして、保育士の方をはじめとする被災住民の皆様には、復旧・復興には長い時間、また困難も多々ありまじょうが、一日も早い復興を心より願うものであります。

コラム

さばこ CAVACO のそねりけ ワーク・ジョンズ

子どもたちの想像力に耳をすまそう

Vol.13

いよいよ寒くなってきましたね。これからの季節、クリスマス、大晦日には除夜の鐘を聞きにお寺へ、お正月には神社に初詣...わずか1週間あまりでキリスト教、仏教、神道と、いろんな思想とさらに土地土地の慣習がいり混ざっておおいに盛りあがる、世界的にめずらしい国ニッポン! 共通して目にするもの、いろんな行事に欠かせないものといえば...灯りです。ゆらゆらと揺れる小さなろうそくの炎を見つめていると、ぼっと心に温かなものが灯るような気がしてきます。

現在一般に多く使われている洋ろうそくの原料は石油を原料としたパラフィンワックスですが、古くはハゼの実の外殻を絞った「木蠟」や、お米のヌカから採れる「糠蠟」、ミツバチの巣から採れる「蜜蠟」などの自然素材が使用されてきました。現在ではそれぞれ素材として塊のものや、溶けやすいようペレットという粒状にしたものなども販売されていますが、その中でも子どもたちとの活動の中で使用しやすいのが、蜜蠟をシート状に加工したものです。ミツバチの巣から出た蜜蠟は蜂蜜のようななんとも甘い香りがします。プレーンなもの、麦殻のようなやわらかい色をしています。口の中に入れても安全な色素(アレルギーに関してはもちろん注意が必要です)を使用して色付けしたのも販売されています。

活動の前にまずあらかじめ、溶かした蜜蠟に風糸を浸して作成した蠟芯を用意しておきます。蜜蠟シートは気温の低いときは固まってカチカチになりますが、のひらのぬくもりでゆっくり温めると、柔らかく扱いやすくなります。柔らかくなったら、芯を中心にして(ろうろくの上になるほうの芯を1cmほどはみ出して)シートをしっかりとまきまき...巻き終わりを手の温度で温めながらきゅっとおさえれば、みつろうキャンドルのできあがりです。いろいろな色のシートを少しずつ巻いてみたり、手でちぎって貼付け、模様をつけたり、粘土のようにこねて立体的に装飾したり...遊び心満載なキャンドルをつくることができます。蠟芯を切らずに長く取って、間隔をあけていくつも蜜蠟シートを巻いていけば、「さげもん」のようなろうそく飾りに。大切な日にちょぎんと切って、子どもたちと一緒に灯してみたいものです。もちろん、冬は空気が乾燥していて、火事には特に注意が必要! 大人と一緒に本物の炎に接することで、自然や火への畏敬とともに進化を遂げてきた人間の文化に、子どもたちと触れてみる機会を持ってみてはいかがでしょうか。

山下麻里(やました・まり)

グラフィックデザイナー。九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻修了。2007年より目黒実氏が主催する九州大学「子どもプロジェクト」に企画・デザイン等で参加する。在学中、ユニバーサルデザイン教育を通じた社会貢献活動プログラム [子どもたちのUD移動ミュージアム] にデザインで参加、同プロジェクトはグッドデザイン賞、キッズデザイン賞を受賞した。2012年、福岡市西区に「生の松原子どもスコール」をオープン。

編集後記

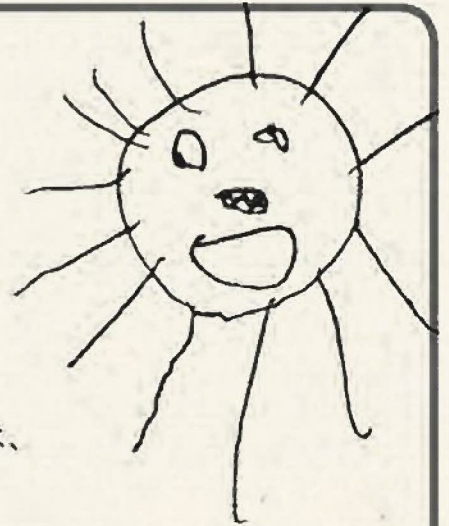
この通信が発行される頃には、すでに保育士の新規採用は固まってしまった後だと思いましたが、ちょうど今が佳境、私も四方奔走しているところです。

ところで、この秋本園の保育を見直さねばならないことがありました。今まで当たり前で営めることを中心とした楽しい保育を心がけ、しかし、いけないことは叱るという対応を職員と共有し実行してきましたが、いけないことをする子の気持ちを理解するというのが少し疎かになっていたと思うのです。例えば、他の子を噛む子に対して、「ダメ!」と制止し、「噛んではいけないよ。」と話しかけてもその子が噛むに至った悔しい気持ちや怒りを共感できていなかったのかもしれない。

ただ、ここまで思い至ったところで、保育士に余裕がないという現実にも直面しています。保育士不足による悪循環が保育にまで影響を及ぼさないよう対策が必要だと思います。(広報部 日野)

発行日 平成28年12月15日
 発行者 万田 康
 編集者 猿渡 保生
 発行元 公益社団法人 福岡県保育協会
 発行所 春日市原町 3丁目1-7
 TEL 092-582-7955
 FAX 092-582-7956

園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん (旧：全私保連保険制度)

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険)」
「特別保育事業賠償責任保険」
など、園経営におけるリスクに関する保険を
ラインナップしています。また、それらを総合的に
補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する
共済制度(こども総合保険)です。
保育者にとっては一般契約に比べて
団体契約による割引の適用で割安な掛金で
補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 公務第一課
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険・こども総合保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりませんが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

